

大学院コンチェルトの夕べ

2020年10月15日(木)

洗足学園 前田ホール 18:30 開演 (18:00 開場)

指揮：現田 茂夫

管弦楽：洗足学園音楽大学大学院 室内管弦楽団



△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

PROGRAM

S.プロコフィエフ(1891-1953)/ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調 作品19
S.Prokofiev/Violin Concerto No.1 D-dur op.19

(院2年 山口 亜純)



尾高 尚忠(1911-1951)/フルート協奏曲 イ長調 Op.30 B
H.Otaka/Flute Concerto A-dur op.30B

(院1年 吉村 由望)



～休憩～

E.コペツキ(1956-)/マリンバと弦楽オーケストラのための協奏曲
E.Kopetzki/Konzert für Marinba und streicher

(院2年 石川 まみ)



H.トマジ(1901-1971)/トロンボーン協奏曲
H.Tomasi/Concerto pour Trombone et Orchestre

(院1年 望月 稜香)



～休憩～

F.リスト(1811-1886)/ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124/R.455
F.List/Piano Concerto No.1 Es-dur S.124/R.455

(院2年 有賀 瞳)



曲目解説

S.プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調 作品19
S.Prokofiev/Violin Concerto No.1 D-dur op.19

1915年から着手し、1917年に完成したプロコフィエフ26歳頃の作品である。
第1楽章：「夢を見るような」とプロコフィエフが語った冒頭の叙情的な主題から始まり、皮肉を謳うような第2主題を経て、最後は冒頭主題が風に揺れるようなソロと共に再現され、静かに曲を終える。
第2楽章：奇抜で目まぐるしいリズム、特殊奏法など、技巧的でありながらも躍動感のある楽章である。
第3楽章：叙情的なメロディーから徐々に激しく高まりを見せた後、まるで柔らかな風と共に魔法が降り注ぐように冒頭の「夢を見るような」主題が現れ、色彩豊かな美しさと温かな静けさをもって曲を閉じる。

(解説 院2年 山口 亜純)

尾高 尚忠(1911-1951)/フルート協奏曲 イ長調 Op.30 B
H.Otaka/Flute Concerto A-dur op.30B

このフルート協奏曲は1948年に作曲者の友人である森正氏のために作曲された。もともと小編成の室内楽版であったものを編成の大きい管弦楽版へ改訂したのがこのOp.30bである。最後の数小節を残して尾高がこの世を去ったため、弟子の林光氏によって残りの部分が完成された。急・緩・急の3楽章からなるこの曲は、終始流動感に満ちており、生命力溢れる独奏フルートと華やかな管弦楽の掛け合いが曲全体を鮮やかに彩る。日本の音階を用いた味わい深い旋律はどこか懐かしさを感じさせる。

(解説 院1年 吉村 由望)

E.コペツキ(1956-)/マリンバと弦楽オーケストラのための協奏曲
E.Kopetzki/Konzert für Marinba und streicher

この曲はドイツ出身の作曲家エックハルト・コペツキによって1999年シュトゥットガルトで初演された。マリンバの細かく動く格好良さや、ゆっくりとしたハーモニーを奏でる弦楽器との調和が美しく、魅力的で楽章ごとに雰囲気が変わる所がとても大好きである。最後はマリンバの最大の魅せ場ともいえる速いパッセージと伴奏の弦楽器がぴったりとはまり合って華々しく曲が終結する。雰囲気と色彩の様々な変化が聴きどころである。

(解説 院2年 石川 まみ)

H.トマジ(1901-1971)/トロンボーン協奏曲
H.Tomasi/Concerto pour Trombone et Orchestre

1956年に作曲された本作品は、同年に開催されたパリ国立高等音楽院のコンテストのために書かれた曲である。トマジの作風は、画家である妻や出身である地中海から大きな影響を受けており、豊かな色彩感が音に表現されていることが大きな魅力になっている。3楽章構成である本作品では、ブルースやワルツなど様々なカラーの旋律が現れることも特徴であるため、ひとつひとつの表情をオーケストラと調和させながら演奏していきたい。

(解説 院1年 望月 稜香)

F.リスト(1811-1886)/ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S.124/R.455
F.List/Piano Concerto No.1 Es-dur S.124/R.455

F.リストはハンガリー出身の作曲家、ピアニストである。
本曲は非常に自由な形式をとっており、楽章間を切れ目なく演奏するため循環するソナタの様にも捉えられる。
第1楽章：第一主題をオーケストラが提示するとすぐにピアノによる衝撃的なオクターブの連続、息継ぐ間も無くカデンツァへと突入し華やかに幕を開ける。
第2楽章：夜想曲風な叙情楽章。次第に激しさを増すが、光の様に差し込むフルートの旋律により凜いでゆく。その旋律は様々な楽器に受け継がれ3楽章への橋渡しとなる。
第3楽章：トライアングルが登場する、バレエ音楽の様な可愛らしいスケルツォ。
第4楽章：これまでに登場した旋律が次から次へと顔を出し、壮大なフィナーレへと発展する。

(解説 院2年 有賀 瞳)

指揮: 現田 茂夫 Shigeo Genda

プロフィール Profile

東京音楽大学作曲指揮専攻で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。神奈川県フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。他、国内外の主要オーケストラも指揮し好評を得ている。世界的チェリスト故ロストロポーヴィチ氏と皇后陛下の古希祝賀コンサート等でも共演し好評を博す。オペラ指揮者としても経験豊かで、東京二期会、関西二期会、錦織健プロデュースオペラほか、海外の劇場での指揮も行っている。また、ペドロッティ国際指揮者コンクール(イタリア)の審査員やNHK-FMラジオのパーソナリティを3年間務めるなどバラエティに富んだ活動を行っている。

洗足学園音楽大学大学院室内管弦楽団

Concertmistress 藤岡 瑞季

1st Violin

高橋 沙織 成田 叶 濱 萌香 松岡 野乃花* 三島 彩*
蛭名 桃子* 大塚 樹里* 橋 純子*

2nd Violin

林 桃子 北川 乃梨子 木村 蒼 菅野 稚子
雨川 笑子* 福田 菜々子* 筆氏 くらら* 森下 由貴*

Viola

有福 佑依 大森 陸 リチャード ZHANG WEICHEN
里見 奈穂子* 栗原 由樹* 安藤 玲奈*

Violoncello

有馬 懂 大友 美侑* 橋本 総司* 原 美月*

Contrabass

吉田 智海 本橋 和樹*

Flute

尾崎 ゆか 永田 博雅 府川 悠理 前原 希美
LI HUAYU 山崎 春奈

Oboe

持田 夏希 三輪 桃子

Clarinet

石井 綾菜* 日下 翔太*

Bassoon

興津 諒* 殿岡 芽依*

Horn

石塚 麻純* 岡林 絵美* 國井 沙織* 神野 了丞*

Trumpet

佐々木 静香* 中西 あづさ

Trombone

加藤 巧樹* 松本 弥津希* 森 秀人*

Tuba

土谷 紗央里

Timpani

島津 翠 角田 和涉

Percussion

島津 翠 角田 和涉 LIU JIN

Harp 山内 悠里佳* Piano/Celesta 森合 爽子

* 演奏補助要員

企画運営責任者 渡部 亨

指導教員

松元 宏康 吉田 行地 水野 佐知香 物集女 純子 吉村 知子
大野 かおる 古川原 裕仁 羽川 真介
篠崎 隆 松本 健司 勝俣 泰 古田 賢司 古田 俊博 府川 雪野
石井 喜久子 井手上 達 山田 徹

アカデミックコーディネーター 古川原 裕仁 助手 中村 日向子